

みなさまへ

私たちは、日韓の歴史教育交流活動の一環として、韓国の全国歴史教師の会が編集発行する季刊『歴史教育』所収の論文を翻訳し、みなさまにご紹介する活動を続けています。

今回は、第146号掲載の以下の2つの論文をご紹介します。

1. イ・ジェウン 「徐勝先生と行く東アジア平和紀行」
2. キム・ヒョネ 「歴史、町と出会う」

1は、昨年夏に行われた会の研修旅行の報告です。徐勝氏のガイドで旧満州国各地を回った研修旅行のようすを伝えています。

2は、小学校5年の歴史学習の授業実践報告です。韓国の初等学校では5年生で韓国の歴史を学ぶのですが、地域に残る遺跡を取り上げて実践した授業です。

ともに現在の韓国の歴史教育の一端を知ることのできる研究活動と授業実践例です。ぜひご活用ください。

2025年4月12日 歴教協日韓交流委員会

## 徐勝先生と行く東アジア平和紀行

イ・ジェウン(仁川チャクチョン中学校)

とてつもなく暑かった 2024 年夏、私は釜山歴史教師の会の会員とともに「徐勝先生とともに行く東アジア平和紀行」に行ってきた。紀行の副題は「中国北間島独立運動の現場を訪ねて」であったし、これまで何度も訪れていた白頭山、延吉、「北間島」、また徐勝という名前に、私は躊躇なく申し込んだ。釜山の会以外にもソウル・仁川の歴史教師と在日同胞、教授たちといっしょだった。今回の踏査で訪ねたところはハルビン、長春、瀋陽など南満州鉄道が進んだ道だった。

満州は、わが国より北にあり、夏にはずっと涼しいところだという漠然とした期待があったが、徐勝先生の事前講義でその期待があますところなく崩れ落ちた。中国の東北三省と呼ばれる満州は、地形的に巨大な盆地である。私たちが歌う「広大な満州平原」という歌詞はなぜか涼しいと感じさせるが、実際に夏は暑く、冬はとてつもなく寒い。清国の時代は封禁地だったが、満州事変以後「偽満州国」が樹立され、沿海州とともに抗日武装闘争が展開されたところが満州だ。徐勝先生は「ハルビンをロシアの香りがする氷の都市、長春を日帝の計画都市-新京、瀋陽を奉天商人」と表現した。

踏査は7月29日(月)から8月5日(月)まで7泊8日の日程だったが、実際の本格的な踏査は6日間にわたった。ハルビンに到着して空港を出たら、中国に来たという実感がわいた。慶南のハ先生が朴詩伯の『35年』を何気なく手に持っていて、検問の空港職員に引き留められたのだ。ハ先生はカバンの中にあったいくつかの本まで没収され、入国するか、本といっしょに帰るかの選択をせまられた。社会主義中国の公安の力を確認した時間であった。ハ先生はどんな決定をされたか？

松花江北側の新都市にあるホテルの前で串焼きとハルビンビールをいただきながら、本当に中国踏査が始まると全身で感じる事ができた。その場にハ先生もいらっやった。

7月30日、鄭律成<sup>チンユルソン</sup>記念館を訪ねて、踏査が始まった。中国では、鄭律成を「人民音楽家」と表現している。全南光州出身の鄭律成は義烈団に加入し、朝鮮革命軍事政治幹部学校を卒業し、延安に行き、社会主義と中国革命を通じた朝鮮の独立を夢見て抗日運動に踏み出した。音楽家である鄭律成は実際の戦闘よりは『朝鮮義勇軍行進曲』・『延安の歌』・『人民解放軍軍歌』などを作曲し、解放後、北朝鮮に行き、おもに音楽家として活動した。6・25戦争中に中国にわたり、文化大革命の苦難に会い、直後に死亡し、中国の革命家が葬られているパルボサン革命共同墓地に埋葬されている。彼の故郷である光州では「鄭律成国際音楽祭」が開催され、現在もおこなわれているが、最近、記念公園設立問題で保守勢力の反対にあい、摩擦がおこっているという新聞記事を見たこともある。

次に旧満州国のハルビン警察署の建物として使われ、多くの抗日烈士が逮捕され拷問された東北烈士記念館を訪ねた。ここで私の目を奪ったのは東北抗日連軍指導者であったヤン・ジョンウについての展示物であった。彼は最後まで満州に残り、抗日戦を展開した東北抗日連軍が関東軍により壊滅される危機に陥り、ソ連に移動する途中で、日本軍との戦闘で死亡した。彼が亡くなった吉林省白山市の町はチンウィヒョンと改名され、記念公園がつくられている。ヤン・ジョンウは東北地方の代表的な抗日運動家として、それ以後もいろいろなところで名前を見つける事ができた。

このほかにも近代ハルビンのようすをうかがえるベージュの美しい建物として記憶に残るナムガン博物館、文化

大革命で破壊されたがその後復元された孔子廟、黒竜江省民俗博物館、美しい外観を保つ聖ソフィア大聖堂、松花江の水流を見て回った遊覧船、スターリン公園とロシア風の建物が並ぶ中央大街などを見ることができた。そして、夕食の席に旅行社の理事が準備したスターリンの顔が描かれワインまで。スターリンという名前のスターリン公園からスターリンワイン、スターリンの名前が記された公園の表示石に挙手敬礼している老年の市民の姿まで、我々が考えているスターリンと違う記憶を持っている人たちのようすが印象的であった。

7月31日は、ハルビン南部にある731部隊を訪問した。朝から雨がしよぼ降る中、多くの中国人観覧客が並んで待っていた。今日が731という日であり、元来人口が多い中国ではどこに行っても並ぶのが基本である。展示館入口には錆びたスチールに中国語、英語、ロシア語、そしてハングルでも「非人道的残虐行為」と書かれている。私たちは日本軍の細菌戦部隊を731部隊だけ知っているが、この他にも長春の100部隊、北京の1855部隊、南京の1644部隊、広東省の8604部隊など中国全域で細菌戦部隊が存在した。もちろん、中心的な役割を果たしたのは、ここ731部隊である。731部隊は当時「防疫給水部」、関東軍の浄水業務をおこなっている所と偽装していた。民間人と軍人など全部で1万人の中国人・朝鮮人・モンゴル人・ロシア人と一部アメリカとヨーロッパ連合軍捕虜までが、ここでは「マルタ」という別称で実験対象となっていた。単に実験だけで終わったのではなく、研究の結果つくられた生物兵器によって数万名の中国人が殺された。731部隊長で医師出身の石井四郎をはじめとする多くの医師と科学者が終戦後、アメリカに実験資料を渡すことと引き換えに、大部分赦免された。徐勝先生は、戦争の責任者である天皇もアメリカが日本を統治しやすくするため、処罰を免除された、と説明された。

展示館の外部には、当時部隊の実験室と本部建物として使っていた建物が一部残っている。組織的意図的に建物と資料を破壊しようとした痕跡を見ることができた。

8月1日、私たちは松花江の南にあるスターリン公園の近くにある兆林公園に行った。抗日運動家李兆林将軍の遺骸がある道理公園を今では、兆林公園と呼んでいる。ここでは伊藤博文を狙撃するためにハルビンにやってきた安重根義士が大事を前に散策し、瞑想したといわれるところで、死刑執行前に出会った弟たちに「私が死んだら兆林公園のそばに埋めて、わが国の国権が回復されたら、故国に改葬してくれ」と遺言を残している。そして、安重根義士が旅順監獄で書いた「青草塘」と「言質」という文字が刻まれた碑石が公園に建てられている。私たち歴史教師は、安重根の手のひらの文様の上に自身の手を置き、安重根の心を反芻してみた。

次に行ったところはハルビン駅南広場の駅舎にある安重根記念館だ。思ったより展示室が大きくなかったが、伊藤博文を狙撃した歴史的なその場所が今も保存されていて、現場の横の建物を記念館として提供している中国当局に改めて感謝の気持ちを抱いた。記念館展示室の白眉は狙撃場所だ。もちろん、実際に狙撃した場所であるプラットフォームは今も使用中であるため、行くことができない。かわりに展示記念館とプラットフォームの間に大きなガラスの窓をつくり、目の前で歴史的な地点をちょうど見ることができる。床にある四角い表示は汽車から降りた伊藤がいた場所であり、そこから3メートルもないところある三角の表示は伊藤に銃撃を加えた安重根の位置である。たとえ、窓を間にはさんでいるが、窓越しに伊藤と向かい合って銃口を定めている安重根のようすが目に浮かぶ。窓の内側の記念館にも実際、プラットフォームとそっくり床に表示を再現している。歴史教師すべてが安重根になることにした。それでは伊藤は？そして、準備をした釜山の会のク先生がハ先生から帽子を借りて、チェ先生からステッキを借りて伊藤の扮装をして、私たちに面白いフォトスポットをプレゼントしてくれた。みんながこの写真をどう授業に活用しようかと楽しく考えながら、記念館をあとにした。

ハルピン西駅へ移動して高速鉄道に一時間乗り、長春西駅に着いた。降りてすぐ移動したところは長春映画博

博物館だ。満州国の首都であった長春は新京と呼ばれていたが、当時の中国では、上海と並び、映画産業を牽引していった場所である。もちろん、長春の映画は政治的な理由があった。ある関東軍の将校が、映画はすばらしい宣伝道具に使えると考えたので、多くを投資したという。実際に中国の映画に関心がなかった私たちは、新中国樹立後につくられた映画展示物もほとんど目に入ってこなかった。主に抗日戦の過程で、共産党の偉大さを美化する内容が主で、時たま国共内戦を扱った映画もあった。映画に特別な情報も関心もなかった私は、ここで若い頃に自分たちが見ていた映画を子供たちに熱心に説明し過去を追憶して幸せな中国の観覧客を見るのがずっと面白かった。

8月2日、満州国皇帝溥儀が暮らしていた宮殿である偽満皇宮博物館を訪ねた。なぜ「偽満」というか？ 偽りのという意味の偽の字をつけ加えて、満州国が日本の傀儡国家であり、溥儀は日本のあやつり人形だったことを強調するのであり、満州国を正式な国家と認めないという意味と思われる。命名というものは重要だが、恐ろしいものでもある。人々は「偽満」という言葉を使い続け、脳裏に満州国に対する意識を注入し刻印させるだろう。

皇宮博物館は敷地が広く、短い時間で見回ることができない。そこで、皇宮の中心の建物である同徳殿を中心に見ることにした。溥儀は3歳の子どもの時、清国の「最後の皇帝」になったが、辛亥革命で追われたが皇族として特別待遇を受けて暮らす。乗馬とゴルフをたしなみ、2人の女性を夫人にしていた。そして、日本の特務にそそのかされて、皇帝にすると約束されスパイ映画のようなストーリーを残して東北に脱出した。1932年、皇帝ではなく、満州国の執政とされ、1934年になって満州国の皇帝になることができた。もちろん、満州国の実際の政治は日本がおこなった。関東軍司令官が駐満大使を兼任し、中国東北地方を実質的に統治したのである。傀儡皇帝になり、日本を2回訪問もした。そして、1945年、ソ連軍に逮捕され、戦犯収容所に監禁された(\*訳注1)。長い時間更生教育を受け、反省の時間を持った。その中で皇帝の特権はすべてなくなり、自身の服を直接縫ったり洗ったりして、『私の半生記』という回顧録を執筆もした。1959年、特赦で解放され、北京に行き、普通の公民として生き、病で死んだ。エアコンが全くきかない博物館をびっしりとした人並の中で、見学し、皆がくたくたになっていた。同徳殿の前の階段で倒れるように座ってから、皇宮の横にある「東北抗戦史陳列館」に行こうとして、いつの間にかすくっと起き上がり、熱心に見学した。これぞ、我々は歴史教師である。

ここは満州事変以後、14年間の東北人民抗戦史が展示されている。満州事変以後、国際連盟リットン調査団の調査結果が発表され、42対1の表決で、関東軍の満州国が不当という判決が出て、日本はすぐに国際連盟を脱退した。日本に反対する東北人民革命軍が組織され、抗日戦を展開し、東北抗日連軍に再編され、関東軍の執拗な攻撃でソ連に移動し、東北抗日連軍教導旅に再編される過程がよく展示されていた。写真の中で1943年10月5日、今の沿海州ハバロフスク近郊にあった北野営地で教導旅の旅長であった周保中の横で第1営長として立っていた若い頃の金日成の姿も見ることができた。

つぎに最後の都市・瀋陽に向って行く。長春西駅から再び高速鉄道に乗り、1時間20分で瀋陽北駅に到着した。瀋陽南部にある鉄西区鑄造研究所を訪ねたが、工事中で中にはいることができなかった。残念ながら、朝鮮時代から朝鮮人が多く住む西塔に行った。この近くには、今も韓国人、北朝鮮人、朝鮮族が多く住んでいて、ここはまるで、大韓民国のどこかの通りかと思うようにすべてハンガルの看板が目につく。韓国の「ヒョンポンハルメコムタン[玄風お婆さんコムタン]」という看板と北朝鮮の「ピョンヤン館」という看板が道の両側に並んでいる。最近、尹錫悦政府になって南北関係が最悪になっている。北朝鮮の金正恩も南朝鮮との関係を絶つことを公開的に宣言もした。そのためか韓国人たちを見る北朝鮮食堂の関係者の眼が冷たい。ピョンヤン館の前で韓服を着ていた女性を遠くから写真にとろうとするとすぐに中に入ってしまう。日本と韓国の両方の国籍を持っている徐勝先生も入場を

断られてしまったという。広場市場という名前のショッピングモールもあって、ハングルで客引きする文句があちらこちらにみられる。キムチ、塩辛、マッコリ、ナムルおかず、などの我が国伝統の在来市場に似たような雰囲気だ。

8月3日、9・18歴史博物館を訪ねた。朝9時にすでに天気がとても暑い。それでも券売所は入場を待つ列が長く続いている。9・18は1931年9月18日、日本軍が柳条湖で起こした満州事変が起きた日である。博物館は日露戦争からの日本の侵略史を示している。「奉天占領記念帖」「張作霖列車爆破事件」などが展示されていた。

瀋陽日本戦犯法廷の陳列館では、私たちのために待っていた幼い小学生たちが一つ一つ案内をした。私たちは教師だからなのか子どもの話にもれなく熱心に耳を傾ける姿である。5名の子どもが皆同じ制服を着て、私たちのために解説の内容を暗記して熱心に説明するので、時間に追われていたが、私たちもどうしてもその位にして、とは言えなかった。日本の戦犯たちは裁判の結果、最高有期懲役20年から、18年、16年長期服役判決を受ける（\*訳注2）。<sup>ii</sup>戦犯たちは以後、日本に帰り、自ら自発的な集まりをつくり、日本の歴史教科書歪曲関連の抗議デモをおこない、731部隊の犯罪行為を知らせる写真展も開いた。もちろん、すべての日本の戦犯が過ちを悔いていたわけではない。

とても暑い日射しの中で私たちを案内してくださったイ・グァングン教授が私たちを朝鮮族同胞出身の教え子が運営するピョンヤン冷麺食堂に案内した。本当に久しぶりにピョンヤン冷麺をととてもおいしく味わうことができた。

次に行ったところは瀋陽故宮だ。この時がもっとも暑かったようだ。瀋陽故宮はヌルハチが後金を建国し、首都とした場所である。清の太宗ホンタイジもここで、丙子胡乱をひきおこしたのだろう。宮城はとても大きく、人も多く、とても天気も暑くて、重要なところだけ自由観覧した。まず、最初につくられた大政殿は遊牧民が使うテントに似た様子だ。大政殿は南向きに建てられ、その前の左右に5人の王がいる建物が立ち並んでいる。鳳凰楼は三層の楼閣で、清国の時には、瀋陽城内で一番高いところで、日の出が瀋京八景のひとつであった。皇帝の寝室として使われた清寧宮、その後で、素朴で小さな後園まで見て回って出てきた。

故宮から歩いていける張氏帥府は、張作霖・張学良親子が暮らして東北軍の司令部の役割を果たしたところだ。たとえ馬賊として出発したとはいえ、張作霖は世の中を見る目が並外れていた。人材養成のために大学を設立し、飛行機と大砲の工場などを設立して、当時の中国の軍閥の中でもっとも力があつた。日本との緊密な関係を維持していた張作霖は、結局は日本軍によって、乗ってきた列車が爆発し、殺された（皇姑屯事件）。帥府の前には張学良の銅像が立っている。その生没年度を見ると、1901～2001年で、なんと101歳まで生きた（\*訳注3）。<sup>iii</sup> 私たちがよく知っている西安事件で、第二次国共合作を導いた張学良は、結局、蒋介石によって、台湾まで連れていかれ、蒋介石が死ぬまで軟禁生活を強いられた。軟禁が解かれた張学良は大陸の招聘を拒否し、アメリカ・ハワイで余生を終えた。ハワイの海辺で妻と車椅子に乗って大きなドーナツをかじって笑っている老人の張学良を見て、それでも自分だけのハッピーエンドで締めくくりたかったんだなと思った。

8月4日、踏査の最後の日には撫順地域に行くことにしたが、行こうとしていたところが工事中だと聞いて、急遽瀋陽「防疫給水部」陽市内の踏査地に修正された。はじめに行ったところは北陵公園だ。北陵は清国二代皇帝太宗ホンタイジと皇后が埋葬された墓地である。元々は小陵と呼ばれたが、瀋陽の北側にあるとして、市民はここを北陵と呼ぶ。北陵、瀋陽故宮、東陵（ヌルハチの墓）はすべてユネスコの世界文化遺産だ。公園のように広く、ミニカーに乗って移動した。三層の楼閣を持つ隆恩門を過ぎ、わが国の丁子閣の役割を持つ隆恩殿を見て回った。西陵は隆恩殿の裏側にあつた。はじめは、皇氏皇陵や他の皇帝の陵のように、山のような姿を想像していたが、思ったより大きくなかつた。黒いレンガで作られた城が囲んでいて、その中に生い茂った森とともに陵がある。墓の堀の役割

を果たしている宝城に沿って一周して回る中国人たちが見えない瞬間に乗じて、小陵に向けて拳を飛ばす認証ショットを撮った。丙子胡乱と三田渡の復讐だ!! 授業時間に利用しようという自分だけの楽しい想像をしながら。小陵の前には明楼があるが、その中に「太宗門皇帝の陵」という文字がモンゴル語、満州語とともに書いてある。再び認証ショット。私の小さな復讐のせいかな? ホンタイジののろいか。いきなり夕立が降りしきる。見学していた先生たちがみんな明楼の中に走り込んでこられた。とても「…のために」とも言えず、静かにしていた。

そのあとに中国の巨大な製鉄工場をリモデリングした中国工業博物館、南満州鉄道を走った車を展示している鉄道博物館、満州地域でもっとも大きい遼寧省博物館に立ち寄った。

これで長い踏査が終わった。7泊8日ともに行動した釜山の会の先生たち、ソウルと仁川の先生たち、そして80歳をこえるお歳にもかかわらず、私たちより元気に踏査を率いてくださった徐勝先生、安重根記念館ですばらしい蹴りの手本を見せてくださったパク・ジョンヒョン師範、野球の歴史を興味深く解き明かしてくださったイ・ホユン教授、旅行社のホ・ミヘ理事とパク・ムノガイドまで、この方たちがいらっしゃったので、もう一度歴史教師という私の仕事に誇りとやり甲斐を改めて持てる機会になった。話を聞いてみて気になるでしょ?

ぜひ一度行ってみてください。いいですよ。^^

<訳 大谷猛夫>

---

<sup>i</sup>溥儀はソ連軍に逮捕され、シベリア送りになった。1950年に新中国に移送され、新中国の管理のもと、撫順の戦犯管理所で「教育」を受け、釈放されたのは1954年である。

<sup>ii</sup>撫順の法廷で、日本の戦犯960人の大半は起訴猶予になり、即時帰国した。わずか24名が有期懲役の判決を受けて服役し、満期で釈放され帰国した。帰国した元戦犯は、中国帰国者連絡会（略称・中帰連）を結成し、日本の民主運動の一翼を担った。

<sup>iii</sup>張学良の生年は19世紀最後の年である1900年、没年は2001年で21世紀まで3世紀にわたって生きた稀有な長生きであった。

## 歴史、町と出会う

<町という語は、行政区画としての町という意味ではなく、住んでいる身近な地域という意味で使われている。:訳者>

キム・ヒョネ(ソウル・クムナレ小学校)

### 1. はじめに

小学校での歴史の授業は、じつにさまざまな形で実践されている。韓国史能力検定準備のような概念の整理と暗記中心の授業から、子どもたちの興味を引き出すことのできるようなおもしろい動画や学習プリント、さまざまな種類のもの作り、役割演劇、討論、調査学習まで多様な授業がある。今では小学生の興味を引き出すためにさまざまなゲームをつぎはぎした授業も増えている。歴史に関する水準と関心の程度が大きく異なる小学生に歴史を教える教師にとっては、歴史の授業は容易ではない。毎年、異なる学年とさまざまな教科を教えなければならない教師には、実際のところ5年生2学期の社会科は一種の挑戦であるという教師もいる。小学校の歴史授業の目標はどのようなものか。効果的な歴史授業のあるべき姿は。教師ごとに考えが異なるだけに他教科に比べ授業の形はじつに多様である。

公式的には初めて歴史を学ぶ小学生の場合、歴史は自分とはるか離れた遠い過去のことだと考えざるを得ない。そこで、現在とは関係のない遠い昔のことではなく、「昔の人はこんな道具を使っていたんだ!」、「昔はこんなふうにくらしていたんだ!」、「なぜこんなことをしていたの?」、などの問いへの回答をさがしながら、歴史に対する興味を持ち知りたがり屋になるほどにならなければならないと思う。しかし、実際に授業をしてみると欲が出るのを抑えるのが難しいことを告白せざるを得ない。教師の必要性和欲ではなく小学生が歴史に関心を持ち興味を引き出すことのできる授業はどうあるべきかと悩むばかりである。

5年生2学期の社会科に含まれる歴史の領域は、1週3時間、全部で51時間配当されている。2015年改訂教育課程<学習指導要領にあたる:訳者>では、この51時間で古朝鮮から朝鮮戦争までを取り扱う。例えば古朝鮮から統一新羅と渤海までは一般的に8~9時間扱いであるように、本当に時間が足りない。学期末には授業時間不足のため、朝鮮戦争はただ教科書だけ読んでさっと終わらせることもある。したがって、教育課程の再構成が必要である。国語で歴史をテーマにした討論をし、美術で歴史に関連する文化遺産の絵画や遺物鑑賞の時間を取るしかない。一日の日課表は、国語・美術・社会だが、実際のところは、社会・社会・社会になることもある。いずれにせよ、授業を再構成して科目別到達目標を達成すればよいので問題はない。

5年生の担任を何回か経験し、子どもたちがくらしている身近な町にもっと関心を持ち、学びのよりどころが人々が生きてきて自分が生きている場所になればよいと考え、町と歴史が出会う授業をずっと続けている。

### 2. 授業の実際

町は子どもたちが生きて人生を歩んでいく空間である。しかし、子どもたちは町についてよく知ってはいない。また、5年生の2学期で歴史を学びながら、歴史とは何かわけのわからない遠い昔の話だと考えている。したがって、歴史はあきあきするもので覚えなければならない暗記科目と考えがちである。子どもたちの人生の空間と歴史をまとめて取り扱うことはできないだろうか。歴史の本に出てくる歴史が私たちの町にもあるだろうか。子どもたちの身の回りや私たちの町でおきた歴史的イベントや場所と歴史を関連付けて学ぶことができれば、自分の日常とはつな

がらない本の中の歴史ではなく、私たちの日常のくらしと関連付けて私の歴史として受け止めることができるのではないかと期待した。

5年生の歴史の授業と結びつけて町の歴史を知る活動で、子どもたちが町を理解し、関心を抱くことができるのではないだろうか。町の歴史についての理解と関心は世の中を見る目を育て、町について知る過程を通して深い学びの経験をすることができることを授業の目的とした。

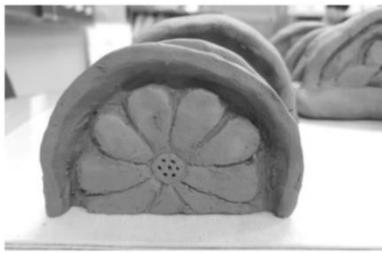
社会科の授業時間だけで社会科教科書に載っている内容を取り扱うには、授業時間が足りない。したがって、多様な授業をするためには、他科目の時間と創意的体験活動（以下、創体）の時間を活用するしかない。小学校の創体はさまざまなテーマとプロジェクト活動の時間として運用されている。2022年改定教育課程では学校自律時間が割り当てられているので、これを活用すれば歴史基盤プロジェクト学習などの時間運用の助けになるとみられる。

次の授業例は、<sup>ワムチョン</sup> 衿川区の歴史に関連する展示館として最初に作られたソウル<sup>トクサンドン</sup> 禿山洞遺跡発掘展示館と関連する歴史を学び、町の歴史絵本をつくるという授業の事例である。

<授業活動の詳細な内容>

■対象:5 学年 ■関連教科:社会・国語・美術・創体			
次時	科目	活動内容	資料
1	創体	「私たちの町の周りにある歴史的な場所をさがす」 ・私たちの町について思いつくことを自由に発言し、意見交換する ・私たちの町の中で行ったことのある場所を知る ・町にある歴史的な場所をさがす  「私たちの町の地名の話」 ・私たちの町の地名の移り変わりを知る ・古地図で私たちの町の地名をさがす（ <sup>シファンヒョン</sup> 始興県地図、1872年） ・今も残っている地名を知る ・ <sup>テドンヨ</sup> 大東興地図にある私たちの町の昔の地名をさがす。また、古地図と現在の地図を比べてみる（国土情報プラットフォームのホームページ活用）	スマート機器
2～3	社会	「三国<高句麗・百済・新羅・詔者>の成長を知る」 ・ <sup>ハンガン</sup> 漢江流域を占有するための三国の成長過程を知る  「町の歴史と関連する場所を調べる」 ・区役所のホームページで町の歴史に関連する場所を検索する ・見学先についての関連資料を調べる -ソウル <sup>ホアムサンソン</sup> 湖岩山城 <sup>i</sup> -ソウル禿山洞遺跡発掘展示館 <sup>ii</sup> ・見学先の歴史的由来と意味を事前調査する	スマート機器

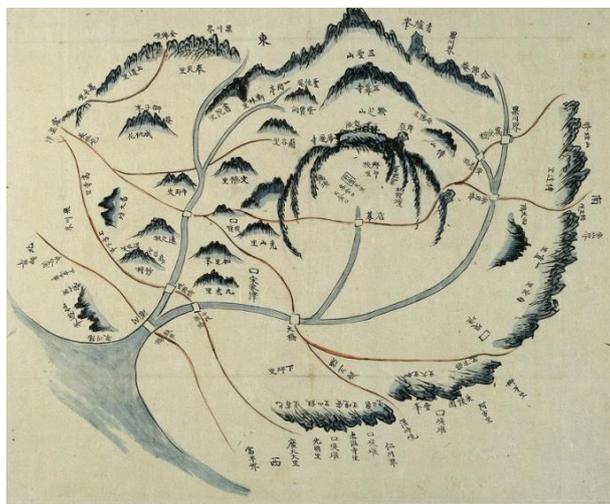
4~5	社会	<p>「ソウル禿山洞遺跡発掘展示館を訪れる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動プリントミッション解決(グループ別)、グループ別に問題作りをする</li> <li>・グループ別に活動プリントミッション解決の内容を発表する</li> <li>・展示館に関連する用語を考え説明する</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>グループ別に問題解決</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>グループ別に解説</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>用語づくり</p> </div> </div>	学習プリント 用語カード
6~12	創 体  国 語  美 術	<p>「町の歴史絵本づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの町の歴史絵本のテーマを決定</li> <li>・話をまとめる</li> <li>・絵を描く</li> </ul> <p>・絵本完成:『ドンスと新羅の市場』・『禿山洞の土器をさがせ』・『タイムマシンに乗って禿山洞の歴史を』・『くぬぎヘリコプター』・『禿山洞の歴史をこっそり盗んで』</p> <p>「絵本の朗読劇」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朗読劇公演をする</li> </ul>	A4用紙 彩色用具

						
		グループ別に話づくり	『私の禿山洞』の作家と 出会う	私たちの町の絵本完成		
13~ 14	美術	「文化遺産づくり」 ・展示館で見た軒丸瓦の形のメモ立てを作る				白磁土 焼きがま
						
		白磁土の軒丸瓦の形をしたメモ立て づくり	白磁メモ立ての完成			

2～3 時間目の社会科の授業は、漢江流域を占領するための三国の成長過程を調べるものだった。この時期と関わりがある町の歴史に関連する場所を訪れることが主な授業の活動である。社会科の授業で三国時代を学び、3 年生のときに学んだ私たちの町の名前の移り変わりや古地図から私たちの地域を学ぶ活動を事前授業としておこなった。朝鮮時代に描かれた地図にある地名の中には今でも使われている地名があり、子どもたちは関心を持った。

ソウル禿山洞遺跡発掘展示館は、新羅が漢江流域に進出し

始興県地図、1872、奎章閣韓国学研究院



てきた時期に一時的に集落が営まれた場所として知られている。マンション建設にともなって発見された遺構や遺物の一部を展示している。学区内の住宅団地の中にあるのだがほとんど閉められていて、近づきにくく自由に利用するのも難しい。3年生を対象にした衿川区町探検コースに入っているので訪れたことがある。だが、3年生はまだ関連する歴史についてまだ学んでいない段階だったので、ただ展示館を眺めただけというような訪問だった。

2017年、衿川区で初めての歴史関連の展示館が開館した。そこで、町連携教育課程に関心のある同僚教師たちといっしょに展示館を町次元で効果的に活用できる方法を探り、子どもたち用の活動プリントや教師用学習資料を製作した。

授業や社会科見学で活動プリントを使うときは、よく考えることが求められる。単なる答えをさがすだけの活動では、子どもたちを受動的な学習者にしてしまう。そこで、より能動的に参加できるよう、単に答えをさがす活動プリントではなく、グループ別に1つのテーマを決めてそれに対する答えを探し、友だちに説明するように進めた。活動プリントはあらかじめ教師が準備しておくのがふつうだが、グループ別に区域を決めておき、問題を作るようにするのもよい。グループが見つけた問題を友だちに投げかけ答えをさがす活動を進めれば、ずっと積極的に活動することになるだろう。

さらに、展示館と歴史に関連する用語を覚えるために、用語合わせゲームをおこなった。展示館関連用語を床に広げて置いて組み合わせ、今日学んだ用語を考える活動である。用語を作り、その意味を教師に説明し、集めた用語を床に順序立てて並べ、最終的にみんなで全部をいっしょに読みながら活動をまとめた。

その後の活動として、展示館に関連する私たちの町の歴史絵本を作ることにした。まず、グループ別にどんな話にするかテーマを決め、話を考えた。グループではいろいろな話が出てきた。展示館の模型で見た市場のようすからアイデアを得たグループは、ドンスが新羅時代の市場で土器を買いに行き、服や瓦などを見る場面を話にまとめた。タイムマシンに乗って禿山洞を旅行しているうちにみんな別々の時代に落ちて、その時代の地名を知ったり当時の人々に会ったりする話もあった。20ページほどの1冊の絵本を作る活動は簡単なことではなかった。時には話が行きづまったり意見が対立したりして、歴史的な事実を元に話を作らなければならないのは容易ではなかった。1週間に1~2時間、時間を見つけて作ったが1ヵ月ほどかかった。グループによって完成度は違ったが興味深い活動だったと記憶している。有名な童話作家劉垠實<sup>リウインソク</sup>さんが描いた『私の禿山洞』を読んで、作家と出会う時間を通して、絵本を作る力をもらう時間ともなった。

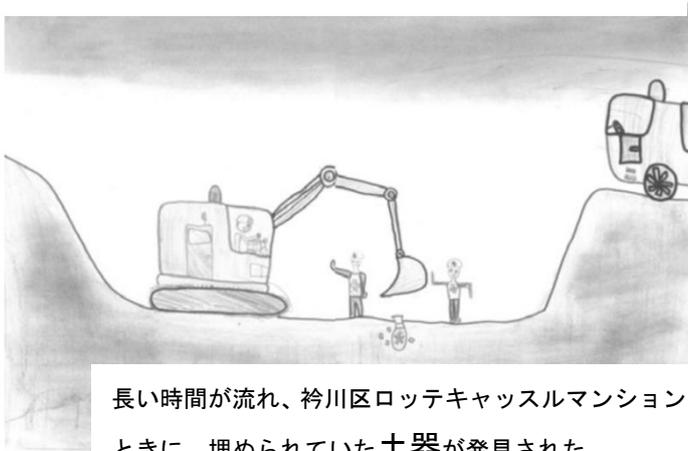
絵本が完成した後は、出版記念会を兼ねて、本を紹介する朗読劇をおこなうことにした。自分たちでポスターを作って貼り出し、5年生の他のクラスや低学年の子たちを招いて絵本発表の朗読劇をおこなった。まるで作家になったように緊張しながら朗読劇を準備したり発表したりする過程を通して何かを学び成長する機会になった。

プロジェクトの最後の活動は、美術の時間に展示館で見た軒丸瓦を参考にして軒丸瓦メモ立てを作ることだ。まず、白磁土で軒丸瓦の形をつくり、それを半分に切ってメモ立てのようにして乾かし、焼きがまだ素焼きし、釉薬を塗った上でさらに焼いて完成させた。子どもたちは焼きがまだの中で割れてはいないか、自分の作品がちゃんとしたものになっているか緊張した。作品うち2、3個は底の部分が離れてしまったが、ほとんどは大きな問題はなく、作品は完成した。初めて焼きがまだ焼き上げた作品はめずらしく、大切に思ったようだった。

『禿山洞の土器をさがせ』から



びっくりした子どもが逃げて行きました。せともの屋の主人が割れた土器を店の横の土の中に埋めました。



長い時間が流れ、衿川区ロッテキャッスルマンションを作るときに、埋められていた**土器**が発見された。

『ドンスと新羅の市場』から



市場で買い物をしていたおじいさんとドンスは、せともの屋に行った。

「この土器は何ですか？」

「ご飯を食べるときに使ううつわだ。」

「米をどれくらい出せばいいですか？」

「ひとつかみでいいよ。」



ソウル禿山洞遺跡発掘現場

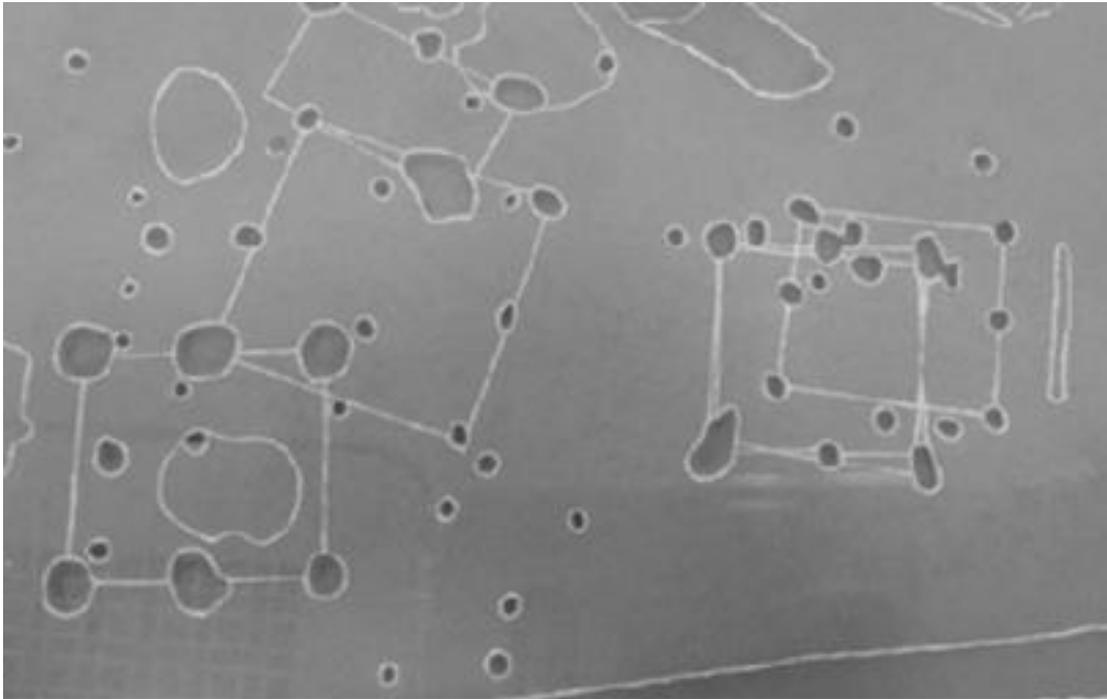
3. 新しいマンション団地を建設するためには、まず地面の中に埋められた文化財があるかどうか発掘調査をしなければなりません。これを「埋蔵文化財発掘調査」といいます。次の説明が指している痕跡をさがして②のように○で囲み、それは何か考えてみましょう。

- ・遺構の全体的なすがたは、思ったより細長いです。
- ・竹の節のように割れた線があります。
- ・全体的に直線だったり曲がっていたりしています。



昔から残っている物や痕跡の中で、建築物の構造と様式などを知ることを知る手助けになるものを遺構といいます。

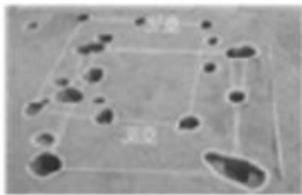
4. 次の図は、禿山洞で発掘調査した建築物遺構の一部です。



1 上の図で  は、家があった場所だと推定されています。家の跡に引かれている直線にそっていくつか並んでいる丸い形は、何の痕跡でしょうか？

- ① かまど                      ② かきね                      ③ 井戸                      ④ 柱

2 下の図のように2軒の家の跡が重なっている場所が何カ所かあります。その理由を考えてみよう。



(例) もともと住んでいた人が家を別の所に移していなくなってしまい、別の人がそこに家を建てて住んだ。



### 3. おわりに

町の歴史をもとに絵本を作るプロジェクトは簡単な企画ではなかった。小学校の歴史の授業の特性上、直接手に触れてみたり経験してみたりする授業が効果的だと考える。その中でより楽しく歴史に触れることを願って授業を企画した。そこで、白磁や青磁を自分の目で見てさわる授業をおこない、社会科見学で現地体験学習をおこなうことにした。また、漢陽土城をいっしょに歩き、より興味深い歴史学習にするため歴史童話を活用した作品全部を読むことに力を入れた。そして、正祖陵行幸再現行事にも参加し、ニュースを作る活動もおこなった。自分の目で見て活動することで何か一つでも知ることができれば、教室で本だけで歴史に出会うことより意味があるのではないかと考える。はたして子どもたちは何がわかったのだろうか、今回の方法は歴史の授業としては効果的だったろうか。絶えず自分に問いかけ、今も答えを探しているところである。

---

<sup>i</sup> ソウル湖岩山城（史跡第 343 号）は、湖岩山の山頂にあり、7 世紀ごろに新羅によって作られたと推定されている山城である。軒丸瓦をはじめ衿川区の昔の地名である仍伐奴インボルノと関係がある文字が刻まれた青銅の匙が発見された。その後、壬辰倭乱の時、湖岩山城一帯は、漢城奪還のための幸州大捷<1593 年 2 月、幸州山城で朝鮮軍と日本軍が闘った戦闘：訳者>と関連して、その後方支援部隊として宣居怡將軍ソンゴイが率いる朝鮮軍士が駐屯していた場所でもある。

<sup>ii</sup> ソウル禿山洞遺跡発掘展示館は、ソウル特別市衿川区禿山洞にある。衿川区中心部の都市開発事業の一環として、2011 年から 2013 年に試掘調査がおこなわれた。その結果、6 世紀後半から 7 世紀前半の新羅土器と瓦などが出土し、新羅が漢江流域に進出し移動した際の一時的な拠点集落と報告されている。発掘調査の後、遺構はそのまま埋め戻され、マンション建設が計画通りに推進された。その代わりに、遺構の一部と遺物を展示する展示館を設立した。

< 訳 平野昇 >